

成人の生涯学習を支援する大学通信教育

—— 佛教大学通信教育課程の社会人学生調査をもとに ——

内 山 淳 子

【抄録】

本稿は、近年本学で増加傾向にある通信教育課程の社会人学生を対象としてヒアリング調査を行い、多様化する大学通信教育での学習支援を検討するものである。これまで大学通信教育はその柔軟な形態から、学業と就業の両立や遠隔地での学習等のニーズに応じて発展してきた。しかし近年の高等教育をとりまく状況は、①生涯学習の認識の広まりによる成人学習の高度化、②高齢人口の増大、③少子化による大学淘汰時代の到来、④ICTの普及による高等教育のオープン化などを背景に変化し、通信教育課程においても多様な学習ニーズの把握と教育の質向上が求められている。入学動機・大学の選択・学習状況等に関するインタビューからは、通信社会人学生は明確な学習の動機をもち、自身の課題や教員への要望も具体的であり、履修の継続によって新たな学習意欲が見出されるという結果が得られた。

キーワード：大学通信教育，生涯学習，成人教育，社会人学生，学習支援

はじめに

平成18（2006）年に改正された教育基本法では第3条に「生涯学習の理念」が新たに加えられ、生涯学習社会の意義が強調された。学校教育法に基づいて設置された通信制大学において行われる教育は、生涯学習支援の一翼を担っている。これまでに長い歴史をもつ大学通信教育へのニーズとして、①仕事と両立しながら大学で学べる柔軟な形態、②高校卒業後の通学制大学の代替、③教員免許等の資格取得ができる教育機関としての役割、などが大きくとらえられてきたと思われる。主に若年層を対象としてきたそれらのニーズは今も変わらず存在するだろう。

しかしながら近年の高等教育をとりまく状況は、①生涯学習の認識の広まりによる成人学習の高度化、②高齢人口の増大、③少子化による通学制大学全入時代の到来、④ICTの普及による高等教育のオープン化¹⁾などを背景として従来とは変化してきている。したがって、大学通信教育はこれまでとは異なる学習者からも学習手段として選ばれる可能性が高まり、かつ多様な学習機会から選択されるような位置づけになってきた。通信制大学が提供する教育にさらなる質向上が目指されており、大学がより多面的な学習ニーズに応え新たな学習者層を開拓し

ていくには、対象となる学習者像を基本的にとらえ直す研究が必要になるとと思われる。

「学習者は何を求めて大学通信教育を選択したのか」、「その期待に応えるカリキュラムと支援体制は整っているのか」、「大学通信教育の魅力とは何か」、これらを改めて見直してこそ、より多様な学習者を獲得し生涯学習支援に貢献していくことができるのではないだろうか。本稿では大学通信教育で学ぶ社会人学生に対して、学習動機、これまでの学習経験、現在の通信教育の方法に対する意見などに関するヒアリング調査を行い、これらを検討することで今後の大学通信教育における生涯学習支援を考察するものである。

1. 佛教大学通信教育課程における成人学習者

大学淘汰の時代を迎えて大学のあり方が議論されるところであるが、通信教育課程においても教育の質を改善していく必要に迫られている。その方法の一つとして対象となる学習者像の把握が重要になる。佛教大学通信教育課程では課程本科生を含むと20歳代から30歳代の受講者が多数を占めるが、その一方で近年は中高年の受講者が増えている。佛教大学事務局では、2012年度にかつての通信教育部を生涯学習部に名称変更している。

2014年5月現在の佛教大学通信教育課程の本科在籍学生数は3646人であった。この在籍者を年齢別にみると（表1）40代以上の学生数は1481人と全体の約4割であり、60代以上は341人と全体の約1割である。この本科在籍者を職業別にみると（表2）無職が1600人と最も多いが、ここにはアルバイト、年金生活者等が含まれている。

一方で、教員免許取得などを主な目的とする課程本科生の年齢構成（表3）では若年層が多くなり、40代以上は451人と全体の1割に満たない。それとは対照的に、修士課程在籍者の年齢構成（表4）は中高年層が目立ち、40代以上は217人と全体の7割以上を占めている。60代以上だけでも2割以上になる。さらに博士課程の25人（文学研究科仏教学専攻9人・同日本史学（現歴史学）専攻16人）中では9人が60代以上である。これらより、課程本科以外の佛教大学・大学院通信教育は中高年を中心とした社会人に受け入れられている状況は明らかであり、この傾向は人口動態予測からも今後さらに強まることが見込まれる。

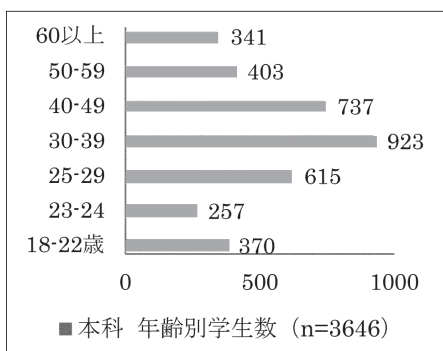


表1. 本科生の年齢構成 (人)

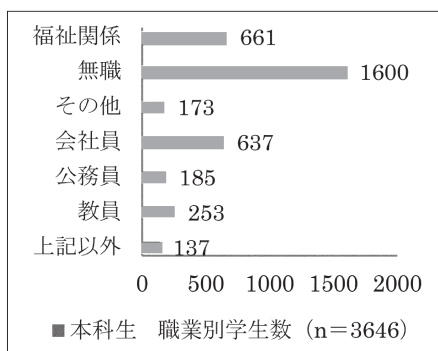


表2. 本科生の職業構成 (人)

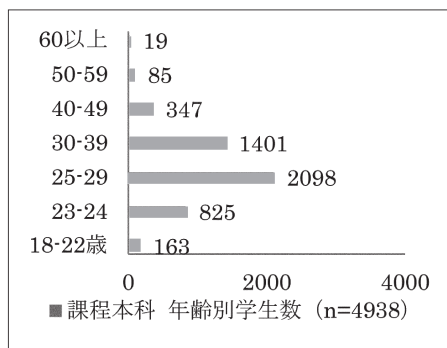


表3. 課程本科生の年齢構成（人）

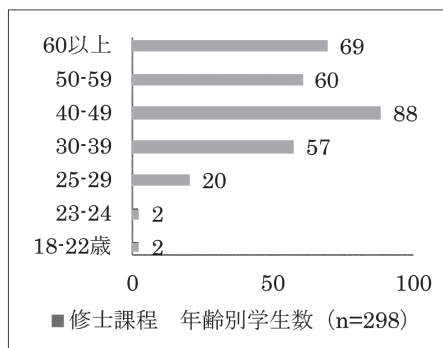


表4. 修士課程の年齢構成（人）

データは2014年5月現在の状況。生涯学習部提供資料から筆者が作成

成人の教育についての初期研究者に、主著 *The Meaning of Adult Education* ²⁾ (1926) の中で「教育は生活である」と述べた E. C. リンデマンがあげられる。その後、アンドラゴジー (andragogy) の概念を「Self-Directed Learning」として理論立てた M. ノールズの著書 *The Adult Learner: A Neglected Species* ³⁾ (1978) にうかがえるように、1970年代までの成人教育研究は子どもの教育 (pedagogy) に比べ注目されることが少ない分野であった。また、A. タフ (Tough, A.) は成人の学習とは学習者が日頃行っている小さな学習経験 (学習エピソード) を連ねた主体的な「学習プロジェクト」であるととらえ、その心理的な学習効果を「ベネフィット」としている ⁴⁾。

このタフの研究からの影響もみられる、日本における成人の学習に関する研究に藤岡英雄の研究がある。藤岡は1970～80年代に NHK 教養番組の研究開発に携わり、1990年代には徳島大学大学開放実践センターの公開講座受講者を対象とした調査を行っている。藤岡はこのような調査から、成人が実際に学習行動を始めるまでには、手がかりがなければ本人に意識されることのない潜在的学習関心と、行動につながる可能性の高い顕在的学習関心の二つのレベルがあるとする「学習関心の階層モデル (冰山モデル)」を示した ⁵⁾。藤岡の研究は社会教育を対象としたものである。本研究はこれらを参考に、学校教育である佛教大学通信教育課程で学ぶ社会人学生の学習ニーズおよび学習状況を質的調査方法 (インタビュー) により検討する。なお、統計的調査方法による佛教大学通信生の学習状況に関する研究は、篠原正典「大学通信教育における学習の継続困難を招く要因 ⁶⁾」にまとめられている。

2. 調査方法

本研究は通信教育課程で学ぶ社会人学生の学習状況や要望を学習者本人から聞くことを目的として、2014年12月から2015年3月の間に、歴史学部、仏教学部、教育学部の12人の学生（本科生8名、学部卒業生1名、学部卒業後の科目等履修生1名、修士修了後の課程本科生1名、

休学中1名)にそれぞれ30分～2時間程度のインタビュー調査を行った。平均インタビュー時間は約1時間である。

インタビュー対象者は、筆者が2013～2014年度に担当したスクーリング(生涯学習・教育学演習・教育学特殊講義)の受講生ならびに佛教大学総合研究所「遠隔教育と対面教育との連携に関する基礎的研究プロジェクト」において2013年に行われた質問紙調査(篠原2014)の回答者のうち、別途筆者が依頼した記述式アンケートに参加し、かつインタビュー依頼連絡をとることができた方々である。さらにインタビュー調査のみに参加した3名も考察の対象とした。社会人学生のニーズを検討する研究の目的上、対象者として有職者および中高年の学生に限って依頼した。また、2015年2月にA支部学友会の活動状況を見学した。なお、今回の報告では記述式アンケートに寄せられた回答については紙幅の関係上考察の対象としていないが、別にまとめている。

インタビュー内容は、①入学の動機②佛教大学を選択した理由③遠隔学習であるテキスト履修(レポート・科目最終試験)への感想④対面学習であるスクーリングへの感想⑤学習支援体制への意見⑥学習者間の交流⑦今後の学習計画と希望、などである。インタビュー調査では上記の質問について半構造的インタビューとしたため、調査協力者の話の流れによって質問できなかった部分や多く語られた部分などが生じることとなった。しかしそれぞれの調査協力者の学習の意図や状況が十分把握できるものであった。

3. インタビュー調査協力者

インタビューに協力していただいた社会人学習者は以下のとおりである。

(1) 教える立場から学生へ ……教える経験をもつ社会人学習者

①Aさん 仏教学部 50代男性(インタビュー2015.1.13)

音楽家として成人を教えてきた経験をもつ。長らく仏教に関心を寄せる中で、個人では学ぶことの難しい中国仏教を卒論テーマに選び仕事と両立して学んでいる。

②Bさん 仏教学部 70代男性(インタビュー2015.2.15)

書道教師として長年近隣の人々を教え、書道会を主宰する。地元の仏教文化を読み解く卒論に取り組んでいる。

③Cさん 教育学部 60代男性(インタビュー2015.1.29)

公民館長等として社会教育に携わってきた。教育の移り変わりを見てきた経験を活かして退職後も地元の青少年育成を続けていきたいとする。

(2) 次の職業への準備として……仕事に活かすために学ぶ社会人学習者

④Dさん 文学部卒 科目等履修生 40代女性(インタビュー2015.2.15)

専門学校と大学の併修制度により英語科教員免許取得後、講師を続けながら教職の幅を広げる

目的で在学する。現在は幼稚園教諭免許取得のため科目等履修生として学習している。

⑤Eさん 教育学部 30代男性（インタビュー2015.2.15）

一般企業に務めながら保育士を目指して学習している。履修は進んでいるが実習のための休暇をとることが難しく1年間の休学中である。

⑥Fさん 歴史学部卒 50代男性（インタビュー2015.2.2）

趣味教養として中世や戦国時代に詳しかった。3年次編入後の学習中に歴史学の専門性を生かした起業を決意し、転職して活動している。

⑦Gさん 歴史学部 60代男性（インタビュー2015.12.19）

退職後に好きだった歴史をじっくり学ぶために入学した。学習するうちに教員になる目標ができ、教職科目も履修している。

（3）専門への関心・知識を深める一学習歴があり、さらに学びを深める社会人学習者

⑧Hさん 歴史学部 50代男性（インタビュー2014.12.20, 2015.8.5に補足インタビュー）

これまで地域の歴史研究家と共に地元に残る郷土史料を学んできた。文化財保存委員も務め郷土の古文書を解説して残す必要性を感じて入学した。

⑨Iさん 歴史学部修士卒 課程本科生 40代男性（インタビュー2015.3.8）

他の通信制大学を卒業後、同じく歴史を学ぶため3年編入。修士課程・学芸員資格を習得し、教員免許取得の課程本科生として在籍。学友会支部長としても活動している。

（4）学習し自分と向き合うために………日常から離れ楽しんで学ぶ社会人学習者

⑩Jさん 仏教学部 50代女性（インタビュー2014.12.18）

幼い頃から祖父母の影響で寺社や仏像に親しむ。身近な人の死に接したこと、書物をきっかけに仏教を学びたいと思った。

⑪Kさん 仏教学部 70代女性（インタビュー2014.12.18）

定年退職後のアジア旅行をきっかけに南方仏教を学びたいと入学した。大学生として新しく学ぶ事柄が楽しいと感じている。

⑫Lさん 歴史学部 70代女性（インタビュー2015.2.15）

福祉ボランティアや家業の農業をしながら両親など6人を看取り、夫の勧めもあって自分の時間をもとと大学通信教育を始めた。

4. インタビューにみる学習状況の分析

インタビュー調査から得られた調査協力者12名の学習状況を、大学通信教育での学習が進行する時系列に添って整理し、以下のようなカテゴリー分けを行った。I. 大学通信を始める前（①これまでの学習経験②入学動機・佛教大学の選択）、II. 学習を行う中での感想（①テキスト履修②スクーリング③履修スケジュール設定の是非）、III. 学習支援について（①学友会②

教科学習会③四条センターの活用④オンラインでの交流), IV. 学習で得られたもの・今後の希望。それぞれのカテゴリーに該当すると思われるインタビュー談話を参考にしながら考察を進めていく。

I. 大学通信を始める前

①これまでの学習経験（潜在的な学習動機）

社会人学生はどのようなきっかけで大学入学（編入）を決意し、佛教大学での学習を開始したのだろうか。インタビューでは、それぞれの生育過程の中で自覚されない潜在的な学習動機、また直接的な動機が語られた。幼少期の体験が大学通信での学びへの動機につながっていることもある。

「祖母が近くの〇〇観音さんにお参りに行くときによく連れて行ってくれました。道の角にはお地藏さんがあって近くには氏神さんがあって身近なものでした。…嫁ぎ先は違って、近くには神社仏閣がないので（その違いに）気が付きました。…卒論はスクーリングに出ると先生が得意の科目を話されるので心動くのだけど、友達同士で話すと原点に返って最初の興味だった仏像かなと思うようになっていきます。」（Jさん）

「小学校高学年の頃にNHKの「シルクロード」を見て歴史を勉強したくなったのがベースとしてあります。広域…という内容が自分に合っていたというか、見ていて楽しかったのです。編入後の2年は楽しかったです。（卒業後）2年ほど間をあけてからまた勉強したいと思って。学部を2年で終えてしまったので、もう少し勉強したいという気持ちがふっと湧いてきて、そうすると自分が行くのは大学院の東洋史しかないなと思って、そちらに進むことになりました。」（Iさん）

思うように学習ができなかった思い出もある。Lさんの生家では、父親が教育熱心であり近所の子どもを兄と共にキャンプなどに連れて行っていたが、女子である自分と一緒に行くことができなかった。

「物心がついたときには色んな子がいっぱいいたし、（私が）小学校になると、例会っていうんですか、を始めて、保護者や印刷をするボランティアが来て、先生を呼んで勉強会検討会もする、ちょっと変わった親でした。」「父は子どもを集めて（ボランティアをされていて）進歩的だったと思いますが、女性には保守的な考えで、女はお嫁に行く人だから宗教も趣味も学問も何も持つてはいけない、まっ白な状態でお嫁に行かなければいけない、という考え方でした。ほとんど遊んだこともありません。」（Lさん）

成人になってからの学習経験が豊富な人も多い。複数の地方史研究会の会員であるHさんは、中学生の頃、地元の村に対して幕末藩主から送られた謝意状をコピーし保管して以来、郷土の古文書はじめ文化を読み解き残したいと考えてきた。これまでにNHK古文書講座にも

入会し、研究会同志の助けを得て古文書（藩主の謝意状）の解説を終え、さらなる学習のため入学した。

「高校を卒業した当時に本当は進学したかったのです…そのころの会社の先輩が（私が）18, 19のころに、今頑張って定時制に行きなさい、全国組織の会社だから京都か大阪に転勤希望を出して大阪大学の定時制へと言われたが…中3の時に母が亡くなっていなければ、歴史学の勉強もできただろうし、そちらのほうへ進むことも可能性があったのかなということも思っておりますけれど。…（今回は）通信でなおかつ歴史学のあるところを探しました。」（Hさん）

また、仕事上の経験を経てより専門的に学ぼうとする人がある。社会教育に携わってきたCさんは現在も地域講師として活動しており、地域の子どもの育ちを案じて教員免許の取得を視野に入れて学習している。一方、音楽家であるAさんは恩師の指導方法を自分の教え子にも伝え、その自由な学習観は仏教学の学びにも生かされている。

「（自宅でできるファミコンは）子どもの人間関係を孤立させた画期的なゲームのように思います。そこから体験の質が変わってきました。体験と言っても少年たちは目の前のことのみに関心がいきます。世の中に役に立つことを一念発起して……ということはありません。それには刺激を与えてあげなければいけないと思います。今やっている青少年健全育成協議会では、肉薄するような遊び、感情を爆発させるような遊びをやってみたいと思っています。そこに何か私たちの時代の遊びが関係するんじゃないかと思います。私たちの頃はそれがあって、遊びからしょっちゅう喧嘩になりました。今はそれが無い…高学年になると周囲に気を遣うようになります。学校は親の目や口出しがありますから。何かそこに地域の民間団体が、使うのは学校なんですけど、子どもたちの所まで下りていって組み立てていけないかなと思っています。」（Cさん）

「中学から高校を卒業するまでくらいに音楽を習った自分の先生が、一緒に音楽を聴くという授業ばかりだったんです。同じ曲を色々な演奏家で流してくれて、誰が好きか？に始まって、どうしてこう弾いたと思うか？とか、それがとても楽しくて。明日も滋賀県で私の好きなピアニストのコンサートがあるのですが、京都の仲間たちと一緒に聞きに行くんです。生涯学習につながることもかもしれませんね。」（Aさん）

②入学動機・大学の選択（顕在的な学習動機）

学習経験のエピソードからは日頃からの潜在的な学習動機がうかがえるが、入学の直接的な動機を尋ねた質問には、実際に入学した段階でのいわば顕在的な学習動機が語られた。この学習行動への変化は藤岡（2008）によっても重要な過程であるとされている。日常忙しい成人がどのようなきっかけで学習行動（通信制大学入学）に移っていったのだろうか。

Kさんは仕事をしている時は他には何もする余裕がなかったという。退職後に身内を看取る経験をし、その後暫くしてからタイへ旅行に行ったことが入学のきっかけとなった。寺院でも

生活する機会があり、帰国後すぐに入学を問い合わせた。

「(旅行で) 南方仏教に興味をもって勉強したいと思いました。それまでは日本の仏教だけ、それも先祖を大事にするという、お寺さんとはセレモニーの時の付き合いしかなかったので、仏教そのものも全く知らなかった。向こうは90%以上が仏教徒と言われていますよね。それで興味が出て…。他の尼さんと朝3時に起きてお経をあげて、それからはずっとお寺の掃除という仕事です。食事はお坊さんが托鉢したものを戴いて、そんな体験があつて日本に戻ってきて、すぐに仏教が勉強できる大学を探しました。」(Kさん)

歴史学部へ入学したLさんは入学の経緯について以下のように話す。視覚障害者への朗読ボランティア等の経験があつたため始めは福祉学部を考えたという。しかし歴史を専攻することにした。

「これまで、6人の身内の介護をしてきたんですけれど、最後の母が脳出血で倒れて病院に運ばれた時に病室で見た新聞の広告に、佛教大学の通信が出ていたんです。他にも学校が並んでいたみたいですが、何故か佛教大学が目についたんです。その時に生と死というのがあまりにも近かったというか、私の人生は何なんだろうと。それが2月で、すぐ大学に電話をしました。」

「主人はとにかく楽しんで来いって、この年になって資格取ってというのではなく、充分お前は福祉をしたからもう生きることにむきになるな、楽しんで来いと言いました。私はボランティアの方のことをしていたから、最初は福祉の資格をきちっと持って皆と関わりをもとうかなとも考えたんですが…」(Lさん)

Aさんは長い間仏教に関心をもってきたが、大学で学ぶことで、点としての知識が時間軸で繋がる線になり、地域や文化を加味して面として理解できるよう心がけているという。

「20代から30代にかけて法隆寺の夏季大学というのに7、8年続けて通ったことがあって…夏に1週間くらい法隆寺内のお寺に宿泊するのですが…仏教にまつわる学者、僧侶の話で、仏教建築だったり…、もっと専門的に仏教を学んでみたいと思って大学へ。実際に大学に行こうと思ったのは、私の親が認知症になり自宅で世話をすることになったり、幼稚園から一緒だった親友が難病で亡くなったことがあって、自分の死生観が変わるような事があったからです。50歳になり人生後半に入って、やりたいことを自分の中で整理していくと、仏教を勉強したい事と、音楽と、仲間の中で会社をやったりするような、それ以外のことには手を出さないように絞られてきたということでしょうか。」
「調べてすぐ申し込みましたが、調べる中でルールとしていたのは(仏教を) 全体的に学べる大学ということです。他の大学は宗派に属した授業内容の比率が高いのに対して、ここはアカデミックに広く学べるように感じました。」(Aさん)

仕事に向けた明確な目標をもって大学通信で学ぶ人もある。Dさんは専門学校と佛教大学通

信課程の併修が可能であった時期に、佛教大学人文学科で英語の教員免許を得て講師をしているが、より幅を広げたいと在学している。また、Eさんは、会社勤めをしながら幼児教育指導者を志望している。正規職であるために長期休暇がとることが難しい。

「(英国留学より) 帰国してから講師を再開して、中学校で非正規ですが常勤や非常勤の講師をやらせていただいていた。その頃小学校に英語が入ってくるという話があって、初めに小学校は2種で取っていたので佛大の課程本科で1種をとりました。2年の課程ですが教育委員会に問い合わせたら教育実習はしなくてよいことになって12単位でよかったんです。それからは小学校の講師もできるようになりました。小学校の担任も経験してみても、私は小学校低学年がっているかなと思いました。それで今年度の始めからは幼稚園教諭をとるために科目履修に在籍しています。」(Dさん)

「教育学部で幼稚園教諭を目指しています。6年在籍して今は休学中で、あと2年しかないのでもう実習などを決めなければいけないんですけど、勤めの関係でそれがずっと先送りされてしまった事情があって。本当ならば今年は7回生で実習を決めていかないと。再入学して1回年限を迎えるともた5年目の状態から始まりますが、費用の問題よりも、単位とかの課程が一部変わってくると思いますし。」(Eさん)

数ある通信制大学の中で何故佛教大学が選択されたのだろうか。調査協力者の入学動機からは特徴的な学部が選ばれた事例が多い。

「昨年の3月に定年退職しました。次に何か目標をもってチャレンジしたいと思い、以前からの憧れでもあった大学で勉強をしようと考えました。今は第二の勤めに平日勤務しています。半年くらいは様子を見ていて、両立ができそうだったので10月後期に入学しました。その前に〇〇大学通信の入学説明会がJ Aの京都南本社であって法学部を考えて行ってみたのですが、歴史学部があるということとで佛大にしました。…歴史学部を選択した理由は第一に京都をよく知りたいということです。せっかく京都に住んでいるのに京都の歴史をほとんど知らない…司馬遼太郎の小説など歴史物はよく読んで親しんでいたんで歴史学部を選びました。」(Gさん)

「私の家からは東京の方が便利がいいのですけれど、調べてみたら南方仏教を謳っている大学が他になかったのですね。ここもはっきりとは分からなかった。佛教大学は色々な仏教が学べるのではないかと…。」(Kさん)

II. 学習を行う中での感想

①テキスト履修（遠隔教育）

通信制大学における学習で中心となるのは、指定されたテキストや参考文献を読んで自宅で学習し、レポートを送付した後に科目最終試験を受けるという遠隔方式で行われるテキスト履修である。これは久しく学校教育から離れていた社会人にとって始めは慣れない作業だが、真剣に取り組まれる様子がうかがえる。

「最初のテキスト履修は大変でした。設題もよく分からずにテキストを全部読むわけですが、このあたりと思って集中的にやるのです。試験ではもしかしたらという所は出来ていたのですが、十分に身につけていなかったのでも半分からいしか書けませんでした。これはダメかなと思っていたらぎりぎり及第点がもらえました。だけど、少したって家の中のあちこちにメモが出てくるんですよ。ですから、一生懸命やったのかなと思って。」(Kさん)

「初めにビデオを見て出したレポートが、ぎりぎりの合格点でした。仕事で書くことには慣れていたので、おそらく設題を考えずにビデオを見て自分の好きなことばかりを書いてしまったのかもしれない。反省教訓にして気を引き締めました。もう一つ不合格だったのがあってそれも同じような評判だったように思うので、それからのレポートはシラバスに書かれている設題の留意点や着眼点に注目するのが大切なんだなと思って書いています。」(Gさん)

学習には次のような社会人ならではの経験も生かされている。

「(テキスト履修に若い人の) 3倍かかって4倍かかってもいいやと思って。良いことは、嫌いなものだから。図書館に5時間いても8時間いても苦にならないし、それは書道のおかげです。空海の灌頂記を全部書いたら朝から晩まで10時間はかかる。…今通信教育をやれるのも、そういうのがベースにあるから苦にならないんです。時間はかかるけれど、何とか大学の単位取得のところまでついていけるんです。」(Bさん)

その一方で、調査協力者の中には、レポート作成に関して学習者本人が求める水準が高いためになかなかレポートを出すことができない人があり、また回答の暗記に傾きがちな試験には負担を感じるという声もあった。レポートを書くために図書館も利用されている。

「(レポートを書くには) いろいろと読まないで駄目なんです。先輩の方は〇〇(他県)の図書館にいらっしゃいというのですよ。県内の図書館であれば公民館の窓口で返却ができるので便利なんです。…大学が近い方は羨ましいですね。(オンラインの大学図書貸出システムもあるが) やっぱり現物を見ないと。今までは自分の興味のあるものだけを調達して読んでいましたが、広く読むようになりましたね。」(Hさん)

②スクーリング(対面教育)

大学に一定期間通い教師や学友と対面しながら学ぶスクーリングに対しては数多くの意見が出され、総じて楽しみにしている人が多かった。授業に出席して学ぶことへの強い意欲が感じられ、授業担当者にも同様の熱意と配慮が期待されている。

社会人にとり最初のスクーリングは印象が強い。

「1回目のスクーリングは60にもなって若い人に混じって恥ずかしいなと思って行っただけですけど、行ってみたら60, 70, 80位の人が入って前の方で聞いておられたので、その気持ちは全く払拭され

ました。60だなんてお前は何を言ってるんだという感じで、後姿を見て励まされました。」（Gさん）

「最初のスクーリングは地元で受けられる科目にしたのですが、1日目に同じ科の人が集まるグループワークがあって、不安が少し和らいで勇気みたいなものを感じて、私も頑張ればできるかもしれないという雰囲気がありました。」（Jさん）

「（スクーリングの第1限目で）感動しました。私はこれまで人から聞かれる立場ばかりだったので、（歴史）好事家として。もちろん私の知らないことを知っていらっしやいますし、学問とはこういうことか、と一番初めの授業で教えていただいたので。…一つ一つのことに資料を提示されて、様々な背景もお話してから全て授業を進めて行かれるんです。それから先生自身がいろんなものを発表されているという、ご自身も教える立場でありながら発信もされるという所も。」（Fさん）

テキスト履修とは違ったスクーリング（対面教育）の特徴は以下のようなコメントにみられる。「仲間ができる、理解し易い、質問ができる」というキーワードがある。

「スクーリングは全国の色々な方に出会えて好きなのでスクーリング中心にしています。テキスト履修はただひたすら勉強して試験を受けるという感じなので。…（体育のグループでは）今も班のラインがあって繋がっています。遠くから来ている人はなかなか学習会がのぞけないので、スクーリングから知り合いになることはいいと思います。」（Dさん）

「上手な先生は時間がすぐ過ぎます。その場で答えが返ってくるというのはスクーリングならではのですね。おやっ、と思っているところにそのまま進行してしまうと意欲がなくなってしまう。手を挙げては聞けないし、先生によっては終わるとすぐ出ていく人もいらっしやるし、もしかしたらそれはもう分かっているよという人がいるかもしれないし…」（Aさん）

「私はテーブルをとっているんです。後から家で聞いて、特に専門科目はパソコンに取り込んでいて、将来の勉強や、もし自分が授業をするときにも何かに役立つかなと思っています。基礎科目はレポートを書くためですね。」（Gさん）

「最初の一般教養のスクーリングは楽しかったです。説明を聞いてみんなわかったのです。自分で理解できると面白くて。ただ、やっぱり面白くないのは理解できないものです。その時に隣になった20代の女性と仲良くなって2日間よくお話をしました。…84歳の男性がいらっしやって九州から飛行機でいらしたという、少しお話しするとすごく元気づけられたりして、そういった出会いがあるとスクーリングは楽しいなと思えたのです。」（Kさん）

どのようなスクーリングが良いかを問う質問に対しては、具体的な希望が述べられた。

「（良いと思うスクーリングは）レジュメがあるスクーリングです。今日はこういう授業で、トータルでこういう授業をしますよ、という見通しができる。それから資料のある授業、参考資料にもなるし、後から自宅学習の時も勉強ができる。それがないと辛い所がある。本に目次があるようにレジュメがあって、それに沿って話してもらうと有難い。」（Gさん）

「スクーリングは会場にもよりますが、講義室が大きすぎるとスクーリングの良さは感じられない。淡々とされる授業だと、高校生までの授業のようなキャッチボールのない授業。投げられっぱなしか、こちらは受けっぱなしという感じで…。あるいはここを万遍なくあてるから加点にしますというような方法だと、自分のあてられることが気になってそっだけ答えるように楽しめないことがあります。」(Jさん)

さらに、スクーリングは卒業論文の指導を受ける教員との出会いの場にもなる。Bさんは、中世の庶民信仰を卒論の中心テーマとして研究することにした。

「2年の時の〇〇先生の授業の時に講義で聞いて、面白いことをやっているなと思って…。本当のことを言うと、書道は中国の言葉に関係が深いから中国仏教にしようと思っていたけれど、中国仏教は幅が広いし、調べると漢文も量があるし止めて。面白い先生でね、そのとき先生がだぶだぶの背広を着てきて、これマーケットで500円で買ってきたというんですね。そうかと思えば、大学近くのフランス料理のお店が美味しいんだと言われて、僕も帰り直ぐにその店に行っただけです。…あの先生が指導教官だと面白いなと思って、そちらへ傾いていきました。」(Bさん)

③履修スケジュール（内容・進度）が決められていた方が良いか

通信教育は学習支援が受けられる教育システムであるが自宅学習が多くなる。佛教大学通信課程では学習計画を自分で自由に決めて学習する形態であり、履修の順序・期日などは決められていない。一方、通学制では卒業時までの学習計画がある程度決められており、通信制でも取り入れる大学もある。通信課程での学習意欲を維持し離脱を防ぐにはどちらのシステムが良いかが議論されている。この方式を取り入れることについて調査協力者に尋ねた。回答からは「指示待ち」と言われる年齢層とは違った意思が感じられる。

「やっている時は欲しかった。出てから考えることは、あったら駄目だっただろうと。過干渉になりすぎると駄目。例えばモデルコースがあって（2年のところを）4年間で緩やかコースとか、そうすると形骸化してしまって同じものしか出てこない。…通信の良さは若い子だけではない所です。私たちに考える機会を与えてくれているので考えているわけです。それは逆にやりすぎない方がいいのかなと、しかしシラバスだけで読み解けと言われても難しい。だからこそもっと、聞いたら答えるシステムがあるといいですね。スカイプであるとかサイトで答えるであるとか。」(Fさん)

「スクーリングみたいに期限を設けてしまうと自分の首を絞めてしまうように思う。意思をもってやるしかない。いつまでにやるんだという強い気持ちをもっていればクリアできると思う。縛ってしまうと通信課程の良さがなくなってしまうような気も…。1, 2年の何も分からない人にはモデルがあった方がいいと思うし、3学年からの分かっている人には無い方がいいかもしれないですね。」(Gさん)

さらに、学習の進め方に工夫をしている人もあった。

「2年生になる前にこれから自分が必要になるであろう本を全部そろえて、背表紙の所にシラバスに書いてある講座番号を貼っておく。次はこれをやるぞという感じで。本も増えていくので本棚の前にこれらの本を並べて、終わると後ろの段に下げていくようにしています。」（Jさん）

III. 学習支援について

インタビューの中では、通常のテキスト履修・スクーリングの他に、「学友会」「教科学習会」「四条センターでの必修科目スクーリング」「オンラインの学習相談フォーラム」の話題があがった。これらは、制度的な学習支援といえるものである。

①学友会一対面方式での学生交流

佛教大学通信課程では学生による学友会組織があり、地区ごとの支部で活動している。さらに支部をまとめる10のブロックが構成されている。支部活動は地方の試験会場に併設された学習室で行なわれることが多い。通信教育課程の卒業・修了生である学習サポーター（大学嘱託相談員）も学習室に在室して学習相談を行っている。大学が行う地方の教科学習会は支部を会場として行われる。学友会支部役員が試験前後に学習会を行うこともあり、インタビューからは情報交換や仲間づくりにも貢献していることが分かる。ただし都市にある支部では試験準備の自習をする人も多く、実際に支部学習会や支部活動に参加する人数は多くはないという。

「昨年度まで支部長をしていました。学友会の活動は外から見ると分かりにくい。生徒会とも違うし、組合とも違う。本当ならば名簿もあるといいけれど個人情報の関係で学友会の会員にどんな人がいるのかも分からないので、組織としては変わった組織です。大学に委託してやってもらっている部分も多い。試験会場や学習会会場の管理は大学ですし、試験監督は大学から来られます。…アットホームな所もあるし支部の運営次第です。…学友会のような組織がある通信制大学は珍しいのではないのでしょうか。自分の時にも学習会はやりたかったかなと思います。」（Eさん）

「〇〇支部、いい支部ですよ。いろんなことを教えていただきました。（支部役員の）学校の先生が4年ではなくて2年ほど（の課程）で来ておられるのですね、PTAへの対応とかいろんなことを教えていただきました。…1か月おきに試験が受けられます。」（Hさん）

「入ってすぐの4月に、私なんて大変な所に入ってしまった、と思っていた初めての試験の日に支部長が声をかけてくれました。落ち込んだ時に支部に行ってみたらどうですか、と言ってくれて。…大阪支部学習会にも一緒に行きました。支部の会計もするようになって…通信の学生さんは生きるのに真面目というか、一生懸命ないい子で、そんな子たちを見られることが本当に嬉しい。」（Lさん）

②教科学習会

教科学習会は、地方支部に授業担当教員が出向きスクーリング形式の授業を行う大学行事の一つとされる。受講してその後にレポートを提出するとポイントとなり、加算して特定のスクーリング科目の単位に振り替えることができる。1泊2日で行われる教科学習会では、1日目

に懇親会があり食事を共にする楽しみがあるという。予め科目と教員が告知されるため、興味のある科目に出席する人も多い。

「全国の学習会によく参加しています。スクーリングだと単位を取りに来る感じなのであまり（楽しさを感じないけれど学習会を感じる。（テキスト履修のような）レポートを書かなくてもいいというのものもあるし、先生も授業から脱線しても動じないようです。（その授業を）受けたいから来る人がいるし、必須ではないので先生も熱が入るのだと思います。」（Jさん）

③四条センターでの代替スクーリング

必修のスクーリング科目である「法然の生涯」「ブッダ」に関しては、市街地にある公開講座サテライトキャンパス「四条センター」での夜間講座が設けられている。

「『法然の生涯』の時には、夜間に来ていたんですよ。毎週水曜日四条センターで夜6時半から8時まで、毎週6回出てくるのは大変でした。…スクーリングを取りそこなったので。仕事の都合でスクーリングに出られにくい方に対して選んで（設定して）おられると思うのですが、…私も日帰りです。時間があつたら四条センターの講座にも出ましたよ。あとは細見美術館に行ってみたり、博物館に行ったり。スクーリングでいっぱい取りますとどこも行けませんね。半日講座を取れば午前中が空いているとかで行けますけれど、もったいなくてできませんね。泊をとったり交通費を使って来ていると、集中講座（全日）を取りたいと思いますしね。」（Hさん）

④オンラインでの学習支援—遠隔方式での学生交流

佛教大学通信課程では登録制によりインターネットでの履修登録・レポート提出などができる学習サポートシステム SSTnet が設けられている。ここでは、学生同士の情報交換の場にも参加することができる。篠原（2014）が行った調査では、佛教大学通信課程の学生への「学生間の意見交換の場がオンライン上にあれば学習が継続できる」の質問に対して、「非常にあてはまる・あてはまる・ややあてはまる」のいずれかを答えた学生は全体の約64%であった⁷⁾。本インタビューでは「オンライン上の学生交流の場があると良いか」について尋ねた。運用の仕方によって学習者間交流に大いに役立つ可能性を含んでいるといえる。

「非常にいいと思いますね。私自身はパソコンのあまり経験がなくて、スマホやツイッターとかもしないので、オンラインでとなると今は少し難しい、拒否反応が出てしまいますね。私は直接会う方がいいですね。」（Gさん）

「使っている人は少ないようです。ログインして入るのでフルネームが載ることになって…以前回答を書き込んだことがあるのですが、質問をした人が2、3日見ていなかったで（回答を）消したことがあります。使い方によってはいいと思います。皆そこまで（HPの中で）行き着いていないのではないのでしょうか。」（Jさん）

IV. 学習する中での思い・今後の希望

通信課程での学習を続ける過程において学習者にはどのような変化が生じているのだろうか。大学通信教育で学習する中での思い、今後の希望を尋ねた。

大学で学ぶことの充実感から、新たな目標を目指す人がいる。

「2年目の履修登録の時に教員免許をとろうと思って登録しました。…昔から憧れはありましたが、勉強する中で知識を得て、今までの経験や年齢からくるものもあるし、何か社会還元できるものがあるのではないか、と思って。自分自身も生涯学習をしていきたいし、教員というのが頭に浮かんだ。岩をも砕くように、60過ぎてからでも教員になれるんだという、自分が先駆者になればいいなと思って。気持ちが確実にになって、やろうと思ったのは1年を終えてからです。勉強していて、面白い、楽しい、色々な知識が入ってきて歴史も好きだし、奉仕できるボランティアもいいけれど、ふっと浮かんだのが教員でした。…1日短時間でも机に向かって勉強する習慣をつけないといけないと思っています。勉強は楽しいですね、辛い所もあるけれど。仕事に比べると楽しい方が前に出ていますね、(仕事では)社会人は生活がかかっていますから。使命感の中の勉強ですから辛いものがあります。」(Gさん)

「(大学で学んで良かったことは)歴史というものが学問としてちゃんと体系立てられて存在しているということが知れたことです。学問としての歴史の目をもつことが出来たことは大きかったです。坂本竜馬がどうだという意見もありますよね、でも歴史学的にはこうだという定説があるわけですよ。いろんな説もあります。…ワアワア(楽しんで)言うのと(学術面の)両面を融合させるということが出来た。それから、色々なことを研究している先生方がいるのだということが分かったので、聞けば良いのだということが分かったことです。これらは大事なことで私は仕事にもなると思いましたし、卒業と同時に会社を立ち上げました。」(Fさん)

「大学に入ってから娘に教えてもらってブログを始めました。ちょっと話題が増えたということかな、自分でしまっておくのはもったいなくて。…大学生の(書道教室の)生徒がすごい褒めてくれると有頂天になったりして。…78になったおじいちゃんがブログやっているなんてあまりないじゃないですか。僧侶になりたいというのもあるし、大学院に行きたいというのもあるし。学資が倍になるから今貯金しているんです。説法をしたい、人に色々なことを伝えたいというのがありますね。」(Bさん)

その一方で、学習者は大学通信教育を続ける中で学習の進行に不安を感じることもある。概して、通信での学びは進捗で測られがちである。しかし、要領よくレポート履修を進める人もあれば、一科目に多大な労力を費やす人と学習内容は様々であろう。提供側はゆっくりとでも深く学習に取り組む意義についても評価し、学習者の状況を理解して可能な支援をしていくべきではないだろうか。

「勉強していると、今まで全く知らなかったことを1個でも2個でも知ることができるから。それ

は仏教に対してではなくても他のことでもすべて通じることなんじゃないですかね。…ただ今はまだちょっと苦しみ状態ですけど。レポートですね、理解することが難しいですね。そこまでいかないという感じです。思い返してみると、今やっていることではなくて、別のことに私は興味があるのかなとも思うのですけれど。…仏教というのは難しいですよ、深いですね。私にやっていけるのかな、という…。」「(時事問題に関するレポートが課された時に) 大学生は社会のことを広く知ることが必要なんだろうなと思いました。」(Kさん)

「…自分勝手な引け目ですよ、やはり、何を専攻されましたかという話になった時に。自分は勉強してきたつもりだという気持ちはありますけれど…。何もこの歳になって、安くないではないですか4年間の授業費も、スクーリングに関わる宿泊や参考文献も…。そして時間は全部それにつぶすわけですから。古文書ならば古文書だけ、研究してみたい近世だけ…。その方がベターかもしれないですよ。…(テキスト履修は) 文学をしているんですが、(試験は) 全部暗記しないといけないんです。」「本当はそれだけを真剣になってやれば、もっとレポートも沢山書けるんでしょうけれど、雑事が多いものです。朝顔を植えていますので仕立てもしないかんですし、畑もありますので猪やサルと喧嘩しながら畑もせんなんですし、今年は順番で仕方なかったのですが地区の役員を受けていますので、冬のスクーリングは全く出られないと思います。半期ごとに決算がありまして決算日と冬のスクーリングがぶつかりそうです。運動会、敬老会がありますしね。来年はスクーリングを主にして決算の方を欠席するつもりですけど、この1年間はね。」「この10月で3年生ですからね、(卒論のテーマも) 決めていかなければいけないんですけど。幕末から明治にかけての地租改正のことをね…農家の経済状況はどうであったのか。私の5代前の祖母が嫁入りに持って来たという打掛はある程度豪華なものです…(当時の農村は) 貧しいばかりではなかったんだろうか、という気もしています。」(Hさん)

おわりに—社会人が学ぶ大学通信教育の意味

今回話をうかがうことができた12名の調査協力者は、当然ながら通信制大学に入学するまでの生活、入学動機、受講状況も様々である。しかし、すべての社会人学習者に共通していたと思われるのは、学ぶことへの強い意欲であった。インタビューの中では、しばしば「面白い」「楽しい」という言葉が聞かれた。学習の継続に不安を感じる人もあるが、続けて話を聞いていくうちに苦労の中にも次の学習計画を構想し、学ぶことに価値が見出されていることに気づかされる。生き生きと学習計画が語られる前向きさは、A. タフが述べた学習行動によって成人学習者にもたらされる「ベネフィット」といえるものであろう。その学びの意欲はカルチャーセンターで満たされるものではなく、単に大学卒業資格や免許取得を目的にするのでもない。体系的な課程を学ぶ大学教育に対する誇りも感じられるのである。したがって、今後も大学通信教育の質は保障されるべきであり、どの年代にとっても安易な学習手段と考えられてはなら

ない。

真剣に向き合う学習ゆえに、大学に対しては社会で経験を積んできた中高年のならではの厳しい目も向けられていた。例えば、スクーリングで同様の科目を2回とることになった時の残念さ、合格が難しいレポートへの疑問が語られ、教員の授業の進め方への要望（声の大きさ、車座になって話せる雰囲気作り、開始時間の厳守、研究している内容を深く話してほしい等）が出されている。

「学生間の交流もそうだが、大学と我々とのコミュニケーションがない。今は一方通行なので、相互交流、先生とのコミュニケーションもほしいですね。それから通信生への就職支援があるといい。通学生はあるだろうし、佛教大学が制度を作ったら大きなニュースになると思う。学長が変わられた時にも、陸上で成績を上げた時にも、何か知らせてほしいです。そうでないと愛校心や帰属意識が生まれにくい。（愛着があれば）結局学校自体の盛り上がりが出るのではないかと思います。」（Gさん）

今回の調査からは、成人の学びはこれまでの経験の上に重ねられ、認識を新たにし、さらに日常生活を変える要素があることが示された。成人学習者から大学に期待される事柄は多く、大学・教員側の対応は重要である。今後の学習社会において大学通信教育が担う生涯学習支援の役割は大きい。以下のコメントは社会人が大学通信教育で学ぶ意義を象徴しているように思われる。

「仏教のことはある程度は予想しているのですが、一般教養の方は知ればこんなに面白いんだとか、いかに自分が知らなかったとか、そういうことを知るということが面白かったですね。法律であったり教育学であったり、こういう授業に出会えたことで大学に来てよかったなと思いました。一般教養というのは自分が関わって生きてきたようなことばかりで、元々経験していたものに何か論理性というか、肉がつくというか、そういう機会はなかなかないですから。…卒業論文は中国仏教について書くことにしています。初めはそれほど関心が無かったのですが、これから先インド仏教や日本仏教については自分で本を買って勉強することもできるだろうけれど、中国仏教はなかなか…、研究も少ない部分です。だからこそ大学で学びたいと思いました。担当の先生にもそう言ったら笑っておられました。できれば大学院にも進めればと思っています。」（Aさん）

注・参考文献

- (1) 米国の大学から始まった無料オンライン講座 MOOC に代表されるように、安価に配信される学習コンテンツが普及しインターネットを通じてはいつでもどこでも学び交流することも可能となっている。
- (2) Lindeman, E. C. *The Meaning of Adult Education*. New Republic Press, 1926.（堀薫夫訳『成人教育の意味』学文社、1996）
- (3) Knowles, M. S. *The Adult Learner: A Neglected Species*. Gulf Publishing Company, 1978.
- (4) Tongh. A. *The Adult's Learning Project* (2nd ed.). Ontario Institute for Studies in Education, 1979.

- (5) 藤岡英雄『学習関心と行動—成人の学習に関する実証的研究（おとなの学びの行動学 第2部）』学文社，2008，pp. 36-37. 藤岡は続けて，社会教育の役割は「顕在化しているニーズに対応する」ばかりではなく「潜在的レベルにとどまっている関心を触発して」顕在化させ，さらに「現実の行動へと転化するのを助ける」ことであると述べている。学校教育を含む生涯学習支援全般への示唆といえよう。
- (6) 篠原正典「大学通信教育における学習の継続困難を招く要因」『平成25年度日本通信教育学会研究論集』日本通信教育学会，2014，pp. 17-33.
- (7) 篠原，同上論文.

謝辞：本研究に参加いただいた調査協力者皆様に厚く御礼申し上げます。なお，本稿は佛教大学「人を対象とする研究」倫理審査委員会の審査を受けた研究である。

（うちやま じゅんこ 嘱託研究員／佛教大学非常勤講師）